

頑張って投稿を続けている

内容も工夫している感覚 / それでも反応が薄い

手応えが残らない状態

原因が分からず自分を責める
続けるほどしんどくなる

ズレに気づけていない段階

努力量の問題ではない

構造のミスマッチ

言葉の向きがズレている

- 誰に向いているか不明確
- 読まれる順番になっていない
- 相手に起きる変化が曖昧

投稿の方向が定まっていない
結果だけが出ない構造

「頑張り直し」を止める

- × 量を増やせば伸びる
- × 毎日投稿が正解
- × 気合いで押せば届く
- × 努力でカバーできる

その方向ではズレが拡大する

頑張り直しでは解決しない
必要なのは「調整」

言葉の向きを一点に集中

届く状態の定義

誰に向けるか明確化 / 読む順番を設計
相手に起きる変化を定義

投稿の目的を一つに絞る

読者基準で配置する

ここで初めて届く状態になる

流れが反応を生む

1. 共感：入口を作る

2. 問い：自分事化させる

3. 視点：理解を更新する

4. 結論：持ち帰らせる

順番が読了を作る

逆になると離脱される

差分だけ、確認する。

1. 過去投稿を一本選ぶ
2. 一文目を「読者の声」に変更
3. 問いを一行追加する
4. 結論を最後へ移動する
5. 誰に向けたか一文化する

そのまま投稿
反応の差を確認する

投稿前のセルフ点検

- ☐ 誰に向いている言葉か明確か
- ☐ 一行目で止まるか
- ☐ 問いが入っているか
- ☐ 順番が崩れていないか
- ☐ 相手に何が起きるか明確か
- ☐ 自分語りから始まっていないか

ズレていれば修正する

軸を固定して、積み上げる。

- 向きと順番を固定する
- 内容改善は後回し
- 反応が出た型を残す
- 毎回同じ軸で書く
- ズレたらここに戻る

必要なら外から調整する

必要な人だけ次へ